

令和3年度 食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム

日配品の商慣習に関する検討会 第2回

日時：令和4年3月8日（火） 15時45分～17時15分

議事要旨

1 議事次第

- ・ 別途議事次第のとおり

2 参加者

- ・ 別途参加者名簿のとおり

3 意見交換結果

(適正発注の推進（リードタイム見直し、納品頻度等）に関する状況)

- ・ パンについて、大手スーパーの発注 1 日前倒しにより、自社の食品ロス削減につながっている。配車手配も効率化され、深刻化する物流状況の改善につながっている。
- ・ 納品頻度削減と生産効率化により、サプライチェーンの物流負荷軽減と食品ロス削減を実現した事例の紹介があった。この事例のような納品頻度の削減は 2024 年問題を考えると非常に重要である。
- ・ 大手スーパーのほか、いくつかの企業で、発注情報送信体制を見直してもらい、以前より、数時間確定発注情報の提供を早めてもらった。食品ロス削減や物流手配効率化につながっている。引き続き取り組みを広げたい。
- ・ 弊社の取引先では当日発注当日納品といった運用も一部残っている。できるだけ発注を前倒ししてもらうように要請している。
- ・ パンの発注を前倒した直後は店舗でロスが増加した。しかし変更後約 1 年経過した現在ではロス率は下がっている。小売業が日配品の 2 日前発注を行う事は、サプライチェーンの食品ロス削減と言う観点から非常に重要なことだと思っている。
- ・ 発注リードタイムと合わせて、納品期限の問題も抱えている日配品企業も少なくないため改善を進めていくことが重要ではないか。

(消費期限延長に関する状況)

- ・ パンの消費期限を伸ばすことができないかを探るため、業界団体として消費期限設定マニュアルの見直しの検討を始めた。その結果がサプライチェーン全体の食品ロス削減につながればと思う。

(プライベートブランドのメーカー在庫品のフードバンク寄贈について)

- ・ プライベートブランドのパン製品がメーカー段階で未出荷在庫としてある場合に、契

約上フードバンクへの寄贈ができず、廃棄している。量としては少なくなく、これが寄贈できるようになれば、食品ロス削減につながる。寄贈が拡大するよう検討すべきではないか。

- ・ プライベートブランドのメーカー在庫の寄贈については、ある会社とは災害時にそれを認めるとの契約を別途交わして実施しているケースがある。

(サプライチェーンにおける情報の連携について)

- ・ サプライチェーンの事業者間でデータ連携を密にする必要が高まっている。サイバー攻撃が深刻化しており、現在の脆弱な情報のやり取りでは、いきなり事業や商品供給が止まるリスクが高まっている。データ連携は規格がバラバラでは労力が増えてしまうので、規格統一化の検討を進めてほしい。
- ・ 現在取引先と共有している情報は確定発注情報のみである。これが販売データや在庫データ、さらには需要予測データが共有されれば、当社の生産もさらに効率化が図れるのではないかと考えている。将来的にはそのような体制が実現されるべきである。情報連携が進むような今後の検討を期待する。

(日配品の食品ロスに関するその他の問題提起・論点・意見・情報)

- ・ 小売店の日配品の値引ロスをいかに減らすかということもこの検討会で考えていくことが重要ではないか。店舗で日配品の値引ロスを削減しているケースを見ると、値引ロスの問題の多くは習慣的なものが多く、改善できる余地は少なくないと感じる。値引ロスが改善されれば、発注の見直しの議論も進めやすくなると思う。
- ・ メーカーでは原料のロスも大きい。突然の販売中止や定番カットが要因となっている。原料ロスについても一度調査・検討の焦点を当ててはどうか。
- ・ パンは売れ筋を見極めて品揃え数を絞り込むことも重要である。それによって小売店でロスが減るだけでなくメーカーでも製造効率が高まって、サプライチェーン全体の食品ロス削減につながる。
- ・ 情報提供だが、当社では需要予測高度化の実証事業を小売業で行っている。廃棄ロスや機会ロスの最小化を目指しているが、検証の結果、ロスの要因として、雨の日の発注が過剰であることが発見されていて、雨の日の2日後にロスが大きくなっている。今後はここに焦点を当て検討を深めていく。

以上